180

さくら

あさがほ

ふくべさくら

いも

まつむし

やきさくら

きせるのるゐちかくその
とものりうこうにあらざる
いろ〳〵へんるゐすべし
たゞしくわしきをつくして
みりのまゝ中をかくらん

のべざせるのめやうとあるべし

のべだり
片のべだり

まくふ
ワじ

男
きせる
れ
さ

つゑ
くし

のべ
ふぶり
の
りきり

けつごんハ
おんな
きせるの
りやうん

はじく

ワ
まくふ
はし

ロぐ

ロ

志ら山乃
まつ乃
こかけに
かくろひて
やすら尓すめる
らいのとりかな

御雛

節筆雛形
筆之部

こまなり大ぎせるありまるみ
あらひめやう天さてそのところへゆてつけべし

同じく

同じくふとんさせるの
めやうあり

ワ

ワ

とまより
をんな
ござる

みべだり

はれんる
むさし

れうぐ

日

略筆雛形　鳥之部
三十

ひべだり
れるじく

れうじ
れうじ

ふとゐさせる

ふとだり

なろじく

ふとおり

ふとなり

牀上有雲鶴
林間僻蟄蟲
清閑談亥夜
愛此樂無窮
烟草詩　槑齋

書ハ聲の色とか聞ゆめく。画ハ身振を
つくるなどいへり。百聞一見にしかずの諺にて
みや図を作り画軸を遺れし。又
ますへ作者ぬ筆なりといふ人今や
櫛と笄乃時代世話髷釵と描
金の紋切形二乃修る事を著して。
櫛の笄雛形といふこれは心を用ひべ。
あんぞ此二役のこれらんやすべくの
振附自在あるべし。

文政六年春

芍薬亭主人

175
6.4.0
Hokusai Imayo Sekki Hinagata

前北齋為一先生画圖

雕工　江川留吉

東都書林　永壽堂藏板目録

為一先醒肉筆画帖

是ハ板に彫る物にあらず前北斎為一先生の肉筆なり然バ遠国の人といへども此画帖を求て学バヾ先生の門に入におなじ

為一先醒雞肋画譜

此書ハ文政二年の頃より見聞せる奇事多く風俗禽獣草木器財及び天文地理等古来より畫工の筆を下し能ハざる紙画に綴りて編を追て出ス

冨嶽八體

四季晴雨風雪霧天の造化に随ひ景色の異るを筆端に著ス

百橋一覧　一枚摺

都下村里の橋地理の宜に随ひ製作の各異なる処を画き又山水を画く助けとなる

画圖風雨霜雪編

山水草木人物禽獣風雨霜雪の趣き強弱軽重の意味を具ふ

一覧百宮室　一枚摺

文政六年癸未夏五月

東都書林

麴町平河町二丁目　衆星閣　角丸屋甚助

馬喰町二丁目角　永壽堂　西村屋與八